

「映像コントアワード2017」
菅家しのぶさんによる受賞作解説

【最優秀作品賞】

◆プリズン／Mr.Party

<https://www.youtube.com/watch?v=5HKXiYtI84o>

常識という言葉を使えば人間がいる。そういう人は、例えば、相手が間違っただけを
していたときに「常識的に分かりそうなものだ」と言ってしまふ。よくあるシチュエー
ションではあるが、果たして、それは本当に世間一般に通じるほどの言説なのだろうか。本
編の主人公はごくありふれた行動を犯罪行為とみなされ、なんと牢獄に捕らえられてしま
う。その世界の中で、彼は非常識ということになる。だが、それを見ている私たちにしま
してみれば、彼を恐れる周囲の人たちこそ非常識に思える。つまり、このコントは常識の曖
昧さをテーマにしている……かどうかは、知らない。

【優秀作品賞】

◆わかってへん／neenu

<https://www.youtube.com/watch?v=rbgSbpR30m8>

口うるさく責め立ててくる恋人の唇を強引に奪って、黙らせてしまふ……恋愛ドラマに
ありがちなシチュエーションである。平々凡々な人生を歩んできた私には、とても出来
ない行為である。否、この世の中に存在する恋人同士の中でも、こんな状況を成立さ
せるような彼氏彼女なんて、そうはいないだろう。そんな特殊なシチュエーションの、
一見するとロマンティックな行動の異常性を浮き彫りにしている本作。お察し通りのオチ
ではあるが、なんともいえない画の強さになんとか引き込まれてしまふ。

◆新人にて候／ウゴォオ

<https://www.youtube.com/watch?v=XbYSHvjtwnU>

例えば、テレビで芸人が演じているコントの中で、多くの人々がそれを異常であると感じ
させるような人物が出てきた場合、そのコントの登場人物たちは「なんだお前は!？」と
いうような反応を見せる。しかし、現実の世界において、そういった人物と遭遇してしま
った場合、そのように反応してみせることは難しい。その異常性は指摘されることなく、
それでいて鳴りを潜めることもなく、淡々とその存在を主張し続ける。この、なんともい
えない、つかみどころのない空気感。たまらない。

【映像賞】

◆本日の料理／Mr.Party

<https://www.youtube.com/watch?v=d2JBQa9F49g>

テレビの情報番組などを見ていると、最新の調理器具が紹介されていることがある。これが妙に面白い。普段、料理を作ることなんて殆どないのに、つつい興味を持ってしまう。陳腐な言い回しになってしまうが、まるで魔法のように料理が出来上がっていくのである。自分が知らないうちに時代というのは進歩していくものなのだと、実感させられる瞬間だ。電子レンジが異常な働きを見せている本作品の滑稽さの根本には、そんな知らず知らずのうちに起きていた調理器具の進化を見据えた視点があるように思う。それはそれとして、コントとしてシンプルに優秀な作品でもある。手堅い三段オチの構成に、出てくる料理の画の説得力、出演者の演技など、笑いの面で評価すべき点が多い。

【コンテキスト賞】

◆移住命令／Mr.Party

https://www.youtube.com/watch?v=mSxpb1KY_3Y

こういう未来は実際に起こり得るだろうと感じた。能力の優劣が反映されない、ただクネクネと踊り続けていけばいいだけの世界。それは、ある意味ではとても理想的だけれど、余計なことの出来ない不自由な世界でもある。ああ、なんというディストピア。……しかし、これは客観的に見ているから感じられることであって、世界がそういう方向へと進んでしまったとき、果たして私たちはその異変に気付けるのだろうか……。

【お笑い賞】

◆囲碁／neenu

<https://www.youtube.com/watch?v=q4EBYGmj2Fw>

基本的に人間は集団で行動する生き物である。知恵を使い、集団を率いて、鋭い牙を持つ猛獣や大きな体を持った巨大生物たちと対抗してきた歴史的背景によるものだろう。知らんけど。で、あるからして、恐るべき頭脳の持ち主である相手に集団の力を用いて戦いを挑んでいる本作品の構図は理に適っていると見える。無論、このような試合は、本来ならば有り得ない。競技にはルールがあり、それを守ってこそ成立するからだ。とはいえ、その守るべきルールをあえて破り、ワチャワチャと盛り上がっている様子はとても楽しそうで、こちらもなんだかニヤニヤしてしまった。

【ドラマ賞】

◆タラレバ閨娘／neenu

<https://www.youtube.com/watch?v=jQELTRzY558>

どんなに恵まれているように見える人でも、多かれ少なかれ現状に対して不満を抱いてい

るものである。そして「～たら」「～れば」と理想とする状況を夢想する。だが、その不満の度合いを更に超えてきた人の話を聞いてしまったら……ある意味、よくあるマウンティングのシチュエーションではあるのだが、本作品では極端に表現することでドープな笑いへと昇華されている。その上で、なんともいえない味わいのオチ。なるほど、確かにドラマチックである。

【名演賞】

◆アイデンティティ／Mr.Party（北高校番長役 KEI）

<https://www.youtube.com/watch?v=hBzqt8KKLtg>

不良というのは、文字通り良くない人のことを示している。社会的に禁じられている行動を取り、世間に背いている。だからこそ、不良のアイデンティティに固執している彼らの言動は、逆に不良のあるべき姿から逸脱している。だが、上下関係や交友関係に厳しいという現実の不良の社会にしても、案外似たようなところはあるのかもしれない。本作品は、そんな不良の矛盾した滑稽さを炙り出した作品といえるだろう。出演陣のメリハリある演技（特に北高の番長を演じている KEI 氏の切り替わり）も良い。

【ショート作品賞】

◆もしもスパイダーマンが現実だったら／Mr.Party

<https://www.youtube.com/watch?v=OIDMXWVHr18>

誰もが知っている名作『スパイダーマン』を“現実だったら”と称しながら、ドイヒーな状況へと追い込んでいくパロディである。ひとつひとつのネタはややベタに寄っているものの、ブリッジに使われている「スパイダーマンのテーマ」で落とされてしまう強引さが妙な可笑しみを引き出している。ところで、刑務所に入るとケツを掘られるというのは、その界限では共通の認識なのだろうか。実に恐ろしい。

【特別賞】

◆クソ YouTuber お菓子レビュー／neenu

<https://www.youtube.com/watch?v=2koqexJSZD4>

一見すると、ありがちな YouTuber の退屈なお菓子レビュー動画なのだが、カメラの向きを変えてみると、まったく別の状況が見えてくる……という作品だ。正直、360度カメラの機能を完璧に使いこなせているとまではいえないが、コメディ動画の新しいカタチを作り出すための実験作であることを考慮すると、評価すべきところもあるように感じられる。今後の進化に期待したい。